

# 妊娠経過中における母体のCMV感染と胎児感染

日立仙台病院研究検査科第二科長

沼崎 義夫

## 1. 臍帯血 Ig M レベルと子宮内感染

子宮内感染によって臍帯血 Ig M レベルが上昇するという Alford らの報告があるので、本邦における臍帯血 Ig M レベルと子宮内感染との関係を調査中である。現在までに 1,661 例の臍帯血が検索されたが、Ig M レベルは表 1) の通りであり、50mg/dl 以上の異常高値を示したものが 5 例 (0.3%) 認められた。これらの新生児 5 例のうち、1 例は出生直後死亡、2 例は未熟児、そのうち 1 例は心奇型 VSD、2 例は正常であった。これらの 4 症例は追跡調査中であるが、サイトメガロウイルス (CMV)、風疹ウイルス、トキソプラズマ感染は否定された。

## 2. 妊娠経過中の CMV 感染

妊娠初期、中期、満期の 3 回血清を採取し抗体上昇によって妊娠経過中の CMV 感染を検出しようとしているが、現在までに 1,276 例中 15 例 (1.2%) に CMV の抗体の上昇を認めた。15 例中 4 例は妊娠初期 CF 抗体が 8 培以下であり、しかもそのうち 2 例は Ig M 抗体の上昇を認めたので初感染と思われるが、残りの 11 例は初期すでに CF 抗体陽性であり、再感染または潜伏感染の再活性化が考えられる (表 2)。15 例の臍帯血からはいずれも Ig M 抗体が検出されず、CMV の子宮内感染は否定的であるが、乳児の臨床については追跡調査中である。(医学のあゆみ、別刷参照)

## 3. 周産期の CMV 感染と抗体反応

本邦では新生児の 60% が分娩時の産道感染をうけると考えられるから、このような周産期の CMV 感染でいかなる疾患をおこすかが重要な課題である。しかし、正常児が CMV を排泄しているので、ウイルス分離以外の診断法が必要である。そのため、新たに EA (初期抗原) 抗体および Ig M 抗体の測定法を (医学のあゆみ、別刷参照) を確立して肝疾患乳児と正常乳児を比較検索してつぎのような結果をえた。

1) 乳児における EA 抗体検出は CMV 感染を意味する。2) Ig M 抗体は肝脾腫大および新生児肝炎群

から検出されたが、健康乳児からは検出されなかった。(表 3)

以上の成績から乳児肝疾患と CMV 感染との因果関係が示唆された。

表 1

臍帯血 1,661 例の Ig M レベル

IgM レベル (mg/dl)	例数	%
0 - 9	1,191	71.7
10 - 19	389	23.4
20 - 29	47	2.8
30 - 39	26	1.6
40 - 49	3	0.2
50 以上	5	0.3

表 2.

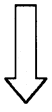
妊娠経過中における CMV 抗体の有意上昇

検査例数	抗体有意上昇例数			
	初期	中期	満期	
1276	CF 陽性	1,212	8	3
	CF 陰性	64	4	0

表 3.

乳児CMV初感染（分離陽性例）における各種抗体検出率

臨床診断	検査例数	C F	I g G			I g M	
			L A	E A	M A	L A	M A
肝脾腫大	6	6 (100)	6 (100)	6 (100)	5 (83.3)	0	4 (66.6)
乳児肝炎	13	13 (100)	13 (100)	10 (76.9)	10 (76.9)	0	4 (30.8)
健 康	30	30 (100)	30 (100)	14 (46.7)	1 (3.3)	0	1 (3.3)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 1. 臍帯血 IgM レベルと子宮内感染

子宮内感染によって臍帯血 IgM レベルが上昇するという Alford らの報告があるので、本邦における臍帯血 IgM レベルと子宮内感染との関係を調査中である。現在までに 1,661 例の臍帯血が検索されたが、IgM レベルは表(1)の通りであり、50mg/dl 以上の異常高値を示したものが 5 例(0.3%)認められた。これらの新生児 5 例のうち、1 例は出生直後死亡、2 例は未熟児、そのうち 1 例は心奇型 VSD、2 例は正常であった。これらの 4 症例は追跡調査中であるが、サイトメガロウイルス(CMV)。風疹ウイルス、トキソプラズマ感染は否定された。